芭蕉翁附合集 乙

芭蕉翁附合集巻之五

柳小折(コリ)汗ばむ涼し紬羽織　芭蕉翁

引捲る道中の裸　酒堂

村雀星より星のありてこそ　去来

塩うけ海を多なる石垣　支考

月ぬる河水風の搖　丈艸

小簾かれて弧ふ鳴り　斧牛

上を見てそなたと誘ひ蓋茶堂
を桶をつくく内庭の松翁
滝あり合ひいつもれてくみて来
大工の新宇山縁をかける考
竹垣の手水かくる庫裏の光牛
仮をもちく砂御利と書崔
陰もつもりて夏のさくと廿
思くゆかふさてる洗ひく来

歩能と焼と篠と毒ある
葉をくさをうさ樫の木の実崔
月光小さ門をと出入ッ翁
窠あるを兒の光る獨板崔
陽光小眠室射る警者の位廿
新茶のかくの風うて来翁
斤に酒とそと指出く崔
近をたのむ別し塙来

落葉は一遍に落ちず
時雨を待つと次の田に水　翁
追ひの嵐の吹くを言　堂
降の時あらし吹く　牛
蓑乱れ張り絶えも居ぬ場　来
手拭脱ぎて外ぬるを牛の蓑　考
川ひとつ渡りて有明の　翁
岩ぶのせまる田上（タナカミ）の宿　竹

四月もいつの間にか清水　堂
桜漬ぶ来るを代代　来
咲き乱ぶ行方を惜しみ　牛
波寄をかけ合ふ陽炎　竹
白粉を如何ともなき新　考
役者の夢の衣乃薫　来

秋の雲打ちくの笠取り　李因
荻の葉ふるふ蔦ふる　翁

ちるべくてこんぜやうの田楽　己百
笠ぬぎうちこんの破の月夜　翁

東風や立の中打水の音　李因
陽炎いとひ蝶の糸に　翁

菜畑に出しの焼や夕煙　也雲
蛍近り　あちさゐの花　翁

こんぜやうの茄子のとちる彩の畑　惟然
こも蔦を笠ぬぎ夕恵　翁

ひれくて来る海の松原に　猿雖
野の形をあらる聚の穂　翁

咲てやあるとおもふ　桔　笠　ろの女
岩ふる堤をとりもるる菊　翁

奥屋もふくて冬来れ指に　嵐川
小春ふ首のくるの虫　翁

寒菜の蒲もひりや生大根　許六
冬ごもり籠る小窓の煙　翁

ゆらゆらふ楚よりれ鶴交　如舟
田地とそのふ旅の鶴　紀　翁

新麦を口ずさむ牧童遠吹　山店

まくさ刈る部の笛ぞうらめ　翁

馬附のうく洲を牧の笛ふ　仝

口ずさむ石の苔乃うて山　店

方々へ路者とり法堂の月　仝

鶯の九法立れも笠　翁

盆過の洗うう素性　仝

知るるるふ笠を中うる　店

蓮生ふ高を中ある男ふう　翁

温の海でのうあさ高　店

丹波うう復もうくて帰馬　翁

長安が年ど利上えせ　店

百ふ出て出笠を追ちし　翁

兵庫中ょ月そうえ帯る　店

祈禱のひつかけにて沙汰もなし　翁
志かくまうしんでまかりある　店
奥の院せわしく花をさし眠る　翁
声さらへひとり鶯のなく　店
来の日子競屋れ伽のつかひと　仝
うろうろや湯漬くらはん　翁
いそかしく路股立をとる若衆　店
同流もいつくし數あるし　翁

かよひ路る欅（ソヌキ）襷に日かくれて　店
佛の西施を包むなふそ　翁
六條くと引枕出せぞ時鳥　店
そろふに草れたなる竹椰　翁
羽二重の赤ゑろまでに物くらひ　店
つくひ時うつ雅せてゐる　翁
雛とまき好をまつりさの月　店
白雨をおれく山かげての花　翁

日光くもうちの人数のさろ　庄
くれ〳〵さのの子　翁
ゆかうせぶ蓮生の数し絵堂　仝
物よせやとまろ天目　庄
花乃ひるうちを暮ひと明つて　仝
藤くれくろ馬谷の石　翁

帷子ハ日くふ子さ陽の夏　史邦
叔さ寿と稲のさつ袋　翁
蓼の穂ふ將右のかひとかを命て　然水
数帝ふ人のさうる夕月　邦
水刀のさこくふ五巻扱　翁
二階そこの屋さ書扱　丈

宝ふ小業ちを吹えく　邦
石丁ふれそ郷ちの滝　翁
細工小新著吸とかん河　子
よひうせそもひ事ぬ小鍋　邦
れまむき津の新茶春金く　翁
秋入ときの筆ないるる　子
塩流ふう清きふ月　邦
元俗ふうしちのいきひ　翁

指ふ北新制力も絡ふう　水
去きく家のくるる和　邦
花小摘む一夏きる表く　翁
小性のに北去ときと月　子
竹橋の内ふうかきひ風穴　邦
馬北蕪かく汲もいきと　翁
夕くれ小流澤絹を投色く　子
きそあもふう繁北節　邦

椀なり小米まじと粉ふり花に逢　翁

比ならて己法明日もしられん　文

旅なれぬのふ茅て風まる娘子先　郎

百里そのまゝ身のふるぬく　翁

ミ剣し去依林木の行思ひ　文

まりもそうまて中ハ生ケ尾　郎

こゝさ狐狸に今ふゝき月の名れ　翁

世そふとまるゝ鴨の乃渕愁ひ　文

摺縫に柿く色紺屋かし　郎

隠子かゝれる宿久の身　翁

小菊咲除雲の吹き帰り　文

二夜之日の継るゆへよ　郎

老てよし能業の花さかり　文

百姓ゆるむ苗代の漆　翁

たもとにあるく

宴の家や小梅のかくれの僧　翁

梳て賣り中々大根　野坡

茅屋にとり乱す柿をかゝゆして　仝

門ふ出る月の黄昏　翁

宴ゆきも枯れ行く薄のざゝ波　仝

けい一谷い栗の古年貢　坡

七十よ有るをよろこぶ枕杖　翁

之丈長う言のさゝ毛　坡

涼しさを宿因乃蛙よく長　翁

鄙なる牛も方角ものもり　坡

是深ふ寺の男乃ちろ入　翁

ちりふ高る旅の茶碗　坡

押借る所也也を喰兼　翁

猪ふ鉢を分ける此を筋　坡

田の中に振せる
芝に道はく月猶ある
花の時紅葉に月も交る
俳諧に米を要れ郭え　坡翁
廣原に芝の法深を引れ　仝
遠ちるよりも和
裏人も根敷のくる萩の露　坡翁
路の外をいく先も

年よりて身に逆の進うし　坡翁
法師酒のひ糸ものお　坡翁
ちゝと樓に風の寄る吉　坡翁
稲逆人の絵を解せる　坡翁
月見堂に新に見る　坡翁
古屋まで家い立ち　坡翁
仮る勢るに生に珠猪出て　坡翁
仕付に和に年の寄　坡翁

田を拵る向迄の稲の穂の実　仝
夫ゝ赤ふなりし百姓鳴　坡

芋掘りより二葉小蕪株の実　丈竹
畠の蕪ふかるる卯月哉　翁

水鶏啼と人の父ゝ仏御前　翁
苗の葉と舟小舟也　嘉川
郭風ふむ子合羽を吹ゝく　素堂
遊女のうゝ老る生りの　翁
ゝゝ小暗生薫せる竹の秋　川
爲て下ゝ掾名るの多　堂

耕作のことをよくしる翁　鼠
を屠りたるを信濃海辺　川
屋敷の鄙なる蕎麦も茂り　流
夏の日暮をかなしつけ　翁
絶壁の陰小さき蟬の声　川
蘭と刈りたてにほひる　流
切立て竹ちらく咲き　翁
お旅の宮乃竹の月　川

うそ寒き元禄清水　流
鶯ふかるるお鷺の家　翁
咲ぬ小猫を見ひ見る人　川
歩びいたる夕ん竹畑　流
山屋敷の鶯場をえらびて　支考
永の日暮をよりより　尤沢
月夜の地をたきの際　巴丈
かりの時の仇を浸也　川

之鈍の念佛ハ今ハ世の風
俗と共に門を閉ぢ
家を建て居る山も
年経の岩ハ苔むして
あるを下へいちどれ
建者自慢の先ハ
金剛ハ一世の時乃
俗さうハ
ハ川ハ未代の照らす新

俗考次

丈川俗考次

建物ハ世ハ
之儀つけて居る
ハ男女も
よりの岩ハ娘家文
有ハ百度も
建も白ハ物の
の出年

丈

紫陽花や藪を小庭の別荘哉　翁

ようさ夏ひひふ細る茶椀哉　子珊

雛ひふ鯛の子煮て呼ぶ客　杉風

七夕の赤き短冊書く　柳蹊

かんくとかの白き衣桐　八桑

撰掘りけてしたもとゝる　翁

俤憂く住替古の雅堂　珊

そうくと吟る清風の壹　風

茅葺小雅郷好せて住捨　蹊

ちいさ紀部の名ゝよりと　桑

高もゆうと内北郷りて　翁

山のかゝる方帝の星　珊

茅外の住ゐて小藤の蔭　風

四方の月もさと細さ新　蹊

枯果てし畑の古株に残れる
雲雀の羽のきぬ物多
ちらくと見れば
ひらくい山なる
正月の赤より紅浅の人雁
落る 俵を
豆の酒
ゆつりられて 降る女房

菜 翁 珊 風 蹄 菜 翁 珊

汁鍋を利上升小云迄
生人生生不穀を糸生
俗搗る者を汁小切入
元七より奥小家をひろ也
元分て今年小時る紅の月
生る花もある者花迄荷
栄華花葉も剪て深迄て
なる人る物いか

風 蹄 菜 翁 珊 風 蹄 菜

開きて一句搖く佐女房　翁

蓼汲白し蹴りてし　珊瑚

今の子ふきて如何潮風　凡

日用のみ笠と節よれもむ　素

庵従荒れ茶屋の花ふきめて　蹴

小舟と出て池の山吹　京

秋ちかき心の空や四畳半　翁

志とろよる時雨の板子北窓　未良

月ぬる夜雲の出羽歩消く　惟然

花ろと沈ふかりきさき　文考

除きて尾吾みれの一きり　良

ものひら時て糊煙立る　翁

少食をくりて陰の結を治
何の結核も大きに
宮〳〵て此のかゝる喘息治
うち〳〵雲のせるひ方
御樫の陰よりのぞき
櫟〳〵ちの落る秋風
八朔の乳を吸ふ結乃
夏蕎の結乃時をゝ

考
治
喜
翁

和歌山藩の御昇水切る
指南ふる醫者の家
治りて細絙をゝ
芝袋如て干もを陽
年新ふちゝ出て
陽を立より
行燈の上より白
夏ふ琵琶とゝ

考
治
喜
翁

米藏に屋敷をとるやうは
竹の根をゆくゆくあのまゝく
さきをくくと京へ枇杷を苔つれ
嫁とりを先なるにとくく
考
言を皆さびくてとぞる出雲の弓
翁
新口をれさうな拍子
良
髮結く書ふ出る紙月出
代
来ふ十升 稼をたゝあひ
翁

海鼠ふ中稲付の苗て 喰祭
考
梅もたらいもたゝしき 編
御代
投うちをとられて 猫の迎ひき
良
肩ふをのをとる掃除は
考
花咲く茶摘 和る書の山
翁
はくしの舵る赤出の岸
代

たゝ第九月小さてゝる菊也

新蓮小水をあるを 新月 多女

流くと紅の汀を折りて 泉竹

行あ世ふ年をくれ 渭川

小ふ蓮小見石の紅緑ひろう 文考

みやさをちりてふくの 惟俊

箱

ゆくふまる梓よ猿を立て居る 酒堂

紙ふくくらり 祝の名代 金龍

恒蟹小ちりと鹽の礼ふく 何中

蓋結のうい小屋て出を焚 箱

海の如小ふえまる姫のさあ屋 女

酒蓋くのむ子稲のすり初 竹

それくと月の如かる牧の歩如 川

夜つあひ雨しまる所岩の牧 考

とれば手洗うて居る者 紙
彼岸の如くさいてゆくさま 堂
きく芝に点ずる所長楽 翁
出ようとする時の一歩を踏む 中
毒ひ蛇と横ふるねえさま 竹
高とうは出て奥の宮殿 川
ひるくるいうて宣長堂 堂
毒ひ入れ小ゆる風 女

結束して陳のみを連ねて 考
陸義は小波のさゝやき 紙
上下の格乃高しる川の岩 中
入田の中と落の乃さゝく 翁
小うの小ふ乃を知るまかり 女
結の仕切のそゝる常横 堂
月々も消て仲巷の波の長さ 竹
枝一本を左のつきし 中

鶯の声れも舞の如くなる
春のちるを小野川原にて
俳ちるる淵の巧みに驚くを
芳川
鶯の巣乃結てかさなる
女
因の水に泛連ふるる花
嵯
柳のさ一本みどりのびり
紙

清ふくと掃寺を高樓実印
竹のそよぎを紙のうしに吹
惟紙
鶯月小鶯さえ尾とふるく
ち芳
ちるを見てちる鶯愛切
吉芝
大八の毎うるる牧小弧
結雑
阿芝の鳥小編星も寒を
翁

夜ふかく水ゆひらく川かのて　卓常
野中（牛と絡ふをやる　九苔
嫁入の来て綾ふ門まつり　芝
杖と茅餞とを新りて　雙
一くさい茅色ふる月数新　代
鎌倉ふり　鎌倉の　浦　雑
大きのひらて田ふ　細ふ　翁
芳賀形とふ桃子の　貌　常

立ふくて文書て金足色の　雑
紙指ふ　弧ふの　翁
人丸小花の　未法乃一ふ色　芳
とふ　ふ　小の　風　雑
拾遺小雲花ふ　時　芝
ふひの　ふ　常
冬枯の九年　ふ　翁
毎年　ふ　芝

指塚の一ゐ所くきいりる　嬰
あはゝ塚のくさ皆つの生る　芳
音のに入みれる所を市　芭
茶の香さ塚の好るを小菜羅　紙
るゝなれそ又んくゝ塚の月　維
そゝふ年寄所伝の杉　翁
有明ふさゝ所ゝ一るを望　常
寂しくれよる乃梅雲ゝ　芭

引ゝて白ちあて金花の門　芳
ひとゝ毎年ふゝふる所　芝
姫ゝとゝせる〇紛る夏の月　雑
いゝ川ゝめの塚く郭風　郷
ちゝと花乃〇〇〇　大ふ　嬰
柳ふまる古丸年松　常

繰る竹の小枝を捨てんとする時に
陣香ありて小男子の能
夕月の入る樹々に寒ふるまて
雁うつを惜ふ時 改
身をとゝめんと二人法華堂に
さ迷ひ入りけるに
繰堂と同利の小行者
能

定
茂
芳
藤
尭
定
茂
芳
藤
尭

法華堂門の能に
大木の梅を枝のもとしく
能小茂をとてさゝを後拾
山伏小法師ありて札所る
一宇ありて宿をとる旅
王和の赤袋の部小月指く
百の出家ふりを時
秋風の夏ふるくと川の上
定
茂
芳
藤
尭
芳

かち荷を舟と見ればかるし ○

見渡し山ハのぼりて花の咲揃ひ 翁

ことふくる春もまた眺れ 藕

永き日の細小路ゆる切目桜 庵

あはれよゐ夜の白鷺 定

のゝ里ゆやよそぐ小米の風来て 麦

紙襖くる寒に杯寒坊主 芳

宮竹の杖乃花にもむるのやさ 麁

しらぬ山路と馬にまかせく ○

花盛りの春を見んとゐる鶯 ○

さくれうけふにゐる光を濁 ○

ひとむれや同ふにとまる人もなし ○

薄墨のいそれも染る竹櫞 ○

ふひるまし花より絹つきかけて 芳

白ひゐる紙すはなれて鉢 藕

[illegible]小今[illegible]や小[illegible]れ[illegible]の[illegible]　石[illegible]子

[illegible]の吉氷る[illegible]つ[illegible]れ梅　式之

一[illegible]の[illegible]の[illegible]て[illegible]る松[illegible]て　箱

[illegible]小刈[illegible]田[illegible]　[illegible]牛

[illegible]の名を[illegible]の月　村敬

[illegible]押[illegible]の[illegible]　梶市

[illegible]殿の簾の中れ大[illegible]ひ　梅家

[illegible]の小[illegible]も[illegible]　箱

[illegible]打と[illegible]せと[illegible]の吉　牛

紙[illegible]羽[illegible]を[illegible]白花　之

[illegible]と[illegible]ふ[illegible]人[illegible]　石

[illegible]の[illegible]の[illegible]　家

[illegible]の[illegible]の[illegible]略[illegible]の花　市

○○[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　村

[illegible]の[illegible]を[illegible]小[illegible]せる　翁
瓶子より[illegible]　之
枝[illegible]の[illegible]場　新
[illegible]あり○よ○○○高[illegible]　百
[illegible]の来て[illegible]小[illegible]を[illegible]せる　村
翠簾の屋風より[illegible]　新
面新小[illegible]る屋敷　翁
[illegible]の物[illegible]風より高[illegible]　年

[illegible]と数の[illegible]れる　之
[illegible]　村
[illegible]の市より酒賣[illegible]　市
明日は[illegible]の月も晴[illegible]　之
稲荷小船[illegible]あり浪　村
家小あさ[illegible]や[illegible]の級　百
[illegible]ら[illegible]る家と[illegible]て　翁
[illegible]の[illegible]より[illegible]　之

かうこうあるか知の高屋をかくす
春と云ふ春を皆蕉翁と云
翁のうつりも花の色あれや　之
烟月行くゆる陽炎　市
知恵の財傷やあらん人と捨て　百
徒小つゝる　蓬一房　村

芭蕉翁附合集終

一追加　追而出

一芭蕉翁文集　出来